

学 科	鍼灸マッサージ科	学 年	3年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有
授業科目名	東洋医学臨床論Ⅰ			担当教員	山田 英史		
授業の方法	講 義			単位数	2単位	時間数	60時間
学修内容	臨床で遭遇すると思われる主な症候に対し、現代医学的な考え方に基づいて適切な施術ができるための知識を習得する						
授業の到達目標	Ⅱ. 医学的知識 5. 東洋療法における主要疾患の症候・治療の概要について身につける						
授業計画	前 期			後 期			
	回	テーマ		回	テーマ		
	1	第1章 治療総論 1. 現代医学的な考え方 1)治療原則 2)治療計画		1	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 13)悪心と嘔吐		
	2	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 23)腰下肢痛		2	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 14)便秘と下痢		
	3	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 20)頸肩腕痛 22)上肢痛		3	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 28)食欲不振 28)肥満		
	4	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 21)肩関節痛 19)肩こり		4	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 26)高血圧 26)低血圧		
	5	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 24)膝痛 25)運動麻痺		5	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 30)発熱 33)発疹		
	6	第2章 治療各論 3.スポーツ医学における鍼灸療法		6	中間試験 第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 31)不眠		
	7	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 3)顔面麻痺		7	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 31)のぼせと冷え 32)疲労と倦怠		
	8	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 1)頭痛		8	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 15)月経異常		
	9	中間試験 第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 2)顔面痛 4)歯痛		9	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 35)小児の症状		
	10	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 1)眼精疲労		10	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 4.老年医学における鍼灸療法		
	11	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 6)鼻閉・鼻汁 7)脱毛		11	国家試験対策 (運動器疾患)		
	12	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 8)めまい 9)耳鳴りと難聴		12	国家試験対策 (頭痛、顔面麻痺 他)		
	13	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 10)咳嗽 11)喘息		13	国家試験対策 (循環器、泌尿器 他)		
	14	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 17)排尿障害 18)インポテンツ		14	国家試験対策 (呼吸器、消化器 他)		
15	第2章 治療各論 2.主要症候に対する鍼灸療法 12)胸痛 13)腹痛		15	国家試験対策 (婦人科、その他)			
評価基準	評価:90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)						
評価方法	中間試験 50% 期末試験 50% の割合で評価します。			実務経験	臨床経験17年 開業歴8年		
履修上の注意	現代医学的な考え方は臨床医学総論、臨床医学各論で習ったことが必要となるので予習をしっかりと行ってください。			授業時間外の学習	授業後の復習をすること。		
使用教材	東洋療法学校協会編 東洋医学臨床論 はりきゅう編 東洋療法学校協会編 「経絡経穴概論」 図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ (文光堂) 臨床家のための基礎からわかる病態生理 (医道の日本社)			連絡先	質問または相談があるときは職員室を訪ねてください。(火・金曜日のみ)		